

新たな発見の連続
～国内研修成果報告書～

<はじめに>

本論では、ゼミ前期課題である個人プロジェクトを、国内研修制度を活用して行った活動の記録と、私自身の考察を述べている。

当初私は、フードバンクに「生鮮食品を取り扱ってほしい」と強く思っていた。そう考えた理由は、フードバンクが支援している食べ物にはカップヌードル等の栄養価の低いインスタント食品がほとんどだった為、「貧困家庭の子供たちはもっと栄養価の高い野菜等が必要なのではないか」と考えていたからだ。その為、フードバンクについての本を読んだり、食品ロス問題やそれらに対する取り組みをたくさん調べたりしてきた。しかし、東京において数少ないフードバンクの1つである“フードバンク狛江さん”を支援したいと決めた。実際にプロジェクトの内容をお電話で説明させて頂いた時、自分がいかに現場を分かっていたかを感じさせられることになった。

当初私が考えたプロジェクト内容は、以下の通りである。①実際に2HJ（セカンドハーベストジャパン）のボランティアに参加し、その際生鮮食品をどのように扱っているのかを実際に見て学ぶ。②①で学んだ方法を元に、フードバンク狛江さんに再度提案しながら、フードバンク狛江さんに合った規模で、生鮮食品を保存するための大型冷蔵庫を設置する。（実際に、2HJはそのようにすばらしい倉庫を構えており、又、私自身フードバンク狛江さんが生鮮食品を扱えないのは設備が無いからだと思っていた。）③私がクラウドファンディングで、目標100万円を集め、そのお金を狛江さんに寄付し、少しでも設備準備の足しにしてもらう。④クラウドファンディングのお返しには、当事者の方にお礼の書いてもらい、そのお手紙を寄付していただいた方に送る。⑤最終的に、立派な設備を構えることは出来なかったとしても、フードバンク狛江さんに「今後生鮮食品を扱おう。」という意思を持って頂くことが最低限の願い。

電話越しで職員の方の反応を受けて、私の考えは本当に甘かったと今は思うことができる。フードバンク狛江さんの真のニーズやその運営スタイルを把握しきれていなかったこと、クラウドファンディングの大変さをあまりにも知らないこと、その他諸々である。フードバンク狛江さんにお電話させて頂いた時、何回も言われた言葉があった。「まずは、あなたの目で現場を見なさい。頭で考えることと、実際は本当に違う。そんなに簡単にはいかないの。」私はその言葉を受けた時ショックを受けて、「今まで何ヶ月もかけて考えたのに、こんなにも簡単に私の案が一瞬にして切り捨てられてしまうのか!」「もう一度考え直してくれないかな…」と考えてしまった。しかし、フードバンク狛江さんの担当者の方に7月23日のフードバンクの親的存在の方がおいでになる講演会にお誘い頂いた為、実際に参加をしたところ、電話口で言われた意味を少しでも理解することができた。

ゼミ個人プロジェクト活動 1 日目

日時:2017 年 7 月 23 日(月)

場所:狛江 エコルマホール 6F 多目的室

目的:講演会・トークイベントに参加することで、フードバンクの運営当事者の方々のお話を聴き、その現実を知ること

<内容と感想>

フードバンク狛江さんの紹介で、「もっと知って! ”フードバンク”」という講演会とトークイベントに参加させて頂いたのだが、このような会に参加したのは初めてで、社会に出た気分だった。この講演会では、NPO 法人 POPOLO の事務局長である鈴木和樹さんを始め、フードバンク狛江の理事長である田中妙幸さん、その他様々な関係機関の方々のお話を、最前列で聴くことが出来た。

会場の受付でご挨拶をした時、フードバンク狛江の職員の方々が、笑顔で温かく向かい入れて下さったのがとても印象的だった。会場に入ったら、見た限り 30 代~70 代(特に高齢の方が多い)の方々ばかりで、場違いではないかと思ってしまうととても緊張していたのだが、ここまでできたらしっかりしなければと思、一生懸命お話を聴いた。

<1 部>鈴木和樹さんのご講演

1 番印象的だったのは、様々な地域の関係機関との「連携」をととても大事にしているということだ。「フードバンク単体でいくら活動しても、食料や支援を必要としている当事者の方々のニーズをキャッチ出来ないのは分かる。だからこそ、様々な関係機関と繋がり、フードバンクの存在を”困っていない人々”にも伝えることが大切だ。結果、1 人でも多くの人々がフードバンクを知ることによって初めて、身近に困っている人をフードバンクに繋げることができるのか。」と感じたと同時に、それが潜在ニーズを発見するのに有効な方法の 1 つであるということを知ることが出来た。

<2 部>トークイベント

今回は、それぞれの関連機関 6 名の方々が順番に個々の活動内容と本日の感想を述べられるのを聴かせて頂く、といった形であった。まず、1 番目の「狛江市自立支援相談窓口こま YELL」の浅井典子さん、田中亜紀子さんお二人のお話で印象的だったのは、PR や連携が足りないということだ。ここでは、「PR と連携は比例関係なのではないか」と感じた。PR を通して様々な人・機関に知られれば知られる程、多くの機関と連携することが可能になると思うからだ。「連携の為に PR」、私が今後フードバンク狛江さんに貢献するにお役に立てそうな課題であると感じた。

又、ケアマネジメントを行う狛江市介護支援専門員連絡会の方のご質問に対する鈴木さ

んのご返答で「ケアマネージャーの方が困っている人の情報を狛江さんにお伝えすることで、困っている人をフードバンクと繋げることが出来る。」というアドバイスに、「なるほど、フードバンクに生活困窮者の方々をおつなぎ出来る機関はたくさんあるんだな」、と感ずることが出来た。更に、印象深い鈴木さんのお話をもう1つだけあげると、生活保護を受けている人はフードバンクの寄付が収入認定とみなされてしまうというお話である。本当に困っている人に対する寄付食品を収入認定としないように働きかける活動をしてらっしゃると知って、また新たに知識が増えた。他にも、多くの方々のお話からたくさんを学ぶことが出来たことを本当に嬉しく思う。

講演後に直接鈴木さんとお話しさせて頂き、名刺を頂くだけでなく、“学生だからこそできる支援”についての具体的なアドバイスまでして頂いた。又、鈴木さんが湯浅先生と繋がっていらしたことを知り、湯浅先生の偉大さを改めて感じさせられた。

又、今日は様々な人と出逢うことが出来たが、今後様々なボランティア活動をしていく上でどんな素晴らしい出会いがあるのかと胸を踊らされた。

マイプロジェクト 2 日目 7 月 31 日 (月) の記録

この日は、フードバンク狛江さんでの初めてのボランティアだった。前日の 20 時頃に急遽ご連絡させて頂いたのですが、少し遅かったかその日は朝の 10 時～17 時で開所しているはずなのに返信がこなかった。伺ってよいのかわからず、初めてのボランティアだったので結局逆にご迷惑をおかけしたら申し訳ないと思い、返事を待ち続けたところ、本日は開所日故午前中は忙しかったということで、13 時頃にご連絡を頂くことができた。わずかな時間でもボランティアをしてフードバンク狛江さんを知りたかったので、電車で約 1 時間かけて自宅から向かい、15 時 30 分～17 時頃まで食品整理をさせて頂いた。その後 18 時頃までフードバンク狛江さんの今までのお話や、今後のプロジェクトのお話など、理事長の田中妙幸さんをはじめ副理事長の田中究さん、田中ご夫妻に割引券を渡す為に足をお運びになられた優しい職員の方との 4 人でお話をすることができた。

初めてフードバンク狛江さんの運営場所へ伺ったが、その際にとっても驚いた。理由は、私が想像していたフードバンク狛江さんとはとても違っていたからだ。フードバンク狛江さんの事務所は、駅から徒歩 5 分ほどの場所にある、大きな通りから少し脇道に入っていくと見える小さなアパートの一室にあった。私が中に入ってまず感じたのは、何とも言えないアットホーム感と、職員の笑顔と「いらっしやい」という声の暖かさだ。一瞬、親戚のお家に来

てしまったのかと思うくらいだった（笑）。私はここへ来る前に、自宅から余った食品と、叔母の家へ寄ってそこでも余った食品をもって伺った。その為、挨拶をした後初めにその食品整理のやり方から教えて頂き、実際に自分が持って来た食品の整理をさせて頂いた。因みに、今日私が寄付した食品は、[ドリップ式コーヒー3箱, 同品4袋, ティーバック1箱, 同品5袋, シチューの素1箱, Cook do 白麻婆豆腐の素1箱, キャンディー1袋, サラダマカロニ150g1袋]の計1kgだ。誰か困っている人に、いつか届くことを願った。

16時頃～、休憩時間といって理事長の田中妙幸さんがメロンとお菓子とお茶を出して下さった。そして、ボランティアの方と職員の方合わせて8人程で楽しく、時に真剣に今後のフードバンクについて話し合った。もちろん、私も積極的に思ったことを述べたりした。私はボランティアに来たばかりなのに、もう休んでしまうのはかえって申し訳ないと思っていたが、職員の方や様々な人とたくさんお話しをし、交流することも大切だと気づいた。多くの人との会話の中に、今後考えている物事の答えのヒントがあり、話し合うことで考えが深まることも多々あった。又、フードバンクの今までについて語る理事長の田中妙幸さんの熱意は本当にすごく時々圧倒されたが、その熱さ故多くのボランティアさんの協力を得ることが出来ているのだな、と本当に感じた。

< 考察 >

今回、フードバンク狛江の田中さんご夫妻に親切にもご協力して頂いて初めて、ここまで活動ができたと改めて思う。活動をしてみて学業や部活、アルバイト等の普段の生活と両立して行うことは本当に難しく、相手との予定の兼ね合いもありなかなか進められなかった。しかし今回の活動を通して、私は2つの重大ことに気づくことができた。1つ目は、「自分にできることを、立場や状況を考えて決定すること」だ。大きな目標を立てすぎると時に自分を追い詰めてしまうことがあるからだ。2つ目は、「活動をする前に、相手の真のニーズをきちんと把握すること」である。そのためには、活動前から事前の話し合いをすることが求められると感じた。今後ゼミで行われる全体プロジェクトや自分の人生に、今回の経験を活かしていきたい。